2級建築士 「Ⅰ計画」のポイント箇条書き一覧表 …過去問H19～H28（全文正解肢、短文化、長文＆図有＆極端に難しい問題は割愛、類似問題は出来る限り統一化）

本内容は、「過去問」について、不正解問題は正解の文面に、長文は可能な限り短文に変更する等して項目別での一覧表にまとめたものである。

文面は、過去問を参考にしていることから、（公財）建築技術教育普及センターとの過去問の使用許諾条件により、「会員講座」のみでの公開としている。

ここでは、参考として一部を公開しているものである（会員講座では全項目におけるポイント箇条書きを公開）。

1. 日本建築作品

伊勢神宮内宮正殿は、倉庫として用いられた高床家屋が神社建築に転化したと考えられており、掘立て柱が用いられた神明造りの建築物である。

伊勢神宮内宮正殿は、正面入口を妻側ではなく、軒側に設けた神明造りの建築物である。

法隆寺金堂は、構造上の特徴として、天秤式に釣り合うように計画された雲形組物を有する建築物である。

法隆寺[illegible]は、重層の入母屋造りの屋根をもつ堂であり、飛鳥時代に建立されたが火災により焼失後、奈良時代に再建された建築物である。

薬師寺東塔は、三重塔であり、中門内の金堂の前方東西に二基の塔を配した伽藍配置の薬師寺式である。

薬師寺東塔(奈良県)は、各重に裳階が付いた本瓦葺きの三重塔であり、奈良時代に建てられた建築物である（五重塔ではない）。

鹿苑寺金閣は、方形造りの舎利殿で、最上層を禅宗様仏堂風の形式とし、二層を和様仏堂風、一層を住宅風、二・三層の内外壁面が金箔の建物である。

円覚寺舎利殿は、部材が細く、屋根の反りが強い等の禅宗様(唐様)の特徴をもった鎌倉時代の建築物である。

桂離宮は、古書院、中書院、新御殿等から構成され、書院造りに茶室建築の特徴を取り入れた数寄屋造りの建築物である。

日光東照宮は、本殿と拝殿とを石の間で繋ぐ権現造りの形式による霊廟建築であり、江戸時代に建てられた徳川家康を祭る建築物である。

軽井沢の山荘（吉村順三）は、森林の中に建つ、1階がコンクリート造、2階が木造の「自然と共にある」という別荘である。

中尊寺金色堂(岩手県)は、外観が総漆塗りの金箔押しで仕上げられた方三間の仏堂であり、平安時代、藤原清衡に建てられた建築物である。

東大寺南大門(奈良県)は、大仏様(天竺様)の建築様式であり、奈良時代に完成したが焼失し、鎌倉時代に再建された建築物である。

サヴォア邸は、1階ピロティ、2階主室、3階屋上庭園と寝室のあるパリ郊外に建つ独立住宅である。設問は、ファンズワース邸の説明である。

落水荘は、2層の床テラスが滝のある渓流の上に張り出し、周囲の自然の眺めを味わえるように意図された住宅である。

斎藤助教授め家は、テラス、廊下、居間が連続する開放的な空間に、可動の家具を配置した木造平家建の住宅である。

スカイハウスは、4枚の壁柱に支えられた居住部分の側面に、取替えや位置の変更が可能な「ムーブネット」と呼ばれる設備ユニットを据え付けた住宅である。

住吉の長屋は、ファサードに玄関以外の開口部がなく、住宅の中央部に光庭を設けた住宅である。

平等院鳳凰堂は、中堂の左右に吹き放しの翼廊が配置されており、平安時代に建てられた建築物である。

日本銀行本店は、辰野金吾の設計であり、バロック様式にルネサンス様式を取り入れたネオ・バロック様式の建物である。

旧赤坂離宮(迎賓館)は片山東熊の設計であり、湾曲した両翼がシンメトリーとなっているファサードのネオ・バロック様式の建物である。

旧帝国ホテルは、フランク・ロイド・ライトの設計であり、幾何学模様を彫刻した仕上げとし、水平の軒が特徴的な外観の建物である。

神奈川県立近代美術館は、坂倉準三の設計であり、鎌倉の鶴岡八幡宮内で中庭を囲んだロの字型の平面を持つ、日本初の公立近代美術館である。

国立西洋美術館本館は、ル・コルビュジエの設計であり、1998年の改修では、免震レトロフィット工法が採用されている。

塔の家(東孝光)は、約20㎡の小面積に建つ地下1階地上5階の鉄筋コンクリート造の都市型住宅である。

ぶるーぼっくす(宮脇檀)は、崖地に建つ四角いコンクリートボックスが特徴の住宅である。

フィッシャー邸（ルイス・カーン）は、フィラデルフィア郊外に建つ、約8m角の2つの立方体が約45℃の角度で接合させた住宅である。

ロビー邸（フランク・ロイド・ライト）は、アメリカ中西部の草原に自然と融和するように建つ、3階建ての住宅である。

円覚寺舎利殿(神奈川県)は、部材が細く、組物が精密に細工され、屋根の反りが強い等の禅宗様(唐様)の特徴を持った建築物である。

小篠邸は、安藤忠雄の設計であり、中庭を挟んで平行に配置された2つの直方体と円弧を描いた増築のアトリエから構成された住宅である。

立体最小限住居は、池辺陽の設計であり、住宅の技術・工法の合理主義的発想から、吹抜け空間により最小限でありながら空間的広がりを持たせている。

スカイハウスは、菊竹清訓の設計であり、取替えや位置の変更が可能な「ムーブネット」と呼ばれる設備ユニットを備え、4枚の壁柱に支えられた住宅である。

塔の家は、東孝光の設計であり、都市部の狭い不整形な敷地に対し、住空間は極めて狭いながら垂直方向に積層して広がりを持たせた住宅である。

厳島神社社殿は、檜皮葺きの殿堂を回廊で結び、海面に浮かんで見えるように配置した建築物である。

清水寺本堂は、急な崖に建っており、本堂正面の舞台を、長い束柱で支える懸造りの建築物である。

聴竹居(1928年)は、藤井厚二の設計であり、日本の気候に併せた環境共生住宅の原点と言われる実験住宅である。

旧東京中央郵便局(1931年)は、吉田鉄郎の設計であり、装飾を排した外観と柱梁による真壁構造に特徴のある郵便局である。

神奈川県立近代美術館(1951年)は、坂倉準三の設計であり、鎌倉の鶴岡八幡宮境内の中の池に面し、中庭を囲んだロの字型の平面を持つ建物である。

広島平和記念資料館(1952年)は、丹下健三の設計であり、原爆の資料を展示している広島市平和記念公園内に建つ建物である。

東京文化会館(1961年)は、前川國男の設計であり、上の公園内にあるコンクリートの打ちっ放しの巨大な庇を特徴とする建物である。

2. 西洋建築史作品

ノートルダム大聖堂(パリ)は、側廊の控壁をつなぐフライングバットレスや双塔形式の正面を特徴とした初期ゴシック建築である。

ハギア・ソフィア大聖堂(イスタンブール)は、キリスト教教会堂の天井にペンデンティヴドームを用いた大空間を特徴としたビザンチン建築である。

サヴォア邸（フランス）は、ル・コルビュジエの設計であり、ル・コルビュジエの唱える「近代建築の5原則」に基づく建物である。

フィレンツェ大聖堂(フィレンツェ)は、頂部へと尖った二重殻のドーム（長さ65m）を特徴としたルネサンス建築である。

パンテオンは、大ドームを特徴とした、ローマ建築である。

ミラノ大聖堂は、多数の小尖塔の外観を特徴とした、ゴシック建築である。

母の家（アメリカ）は、ロバート・ヴェンチューリの設計であり、エントランスのある主室を中心に各室が動線的に接続されている。

落水荘（アメリカ）は、フランク・ロイド・ライトの設計であり、滝や岩の自然とコンクリートが融合された建築物である。

ファンズワース邸(アメリカ)は、ミース・ファン・デル・ローエの設計であり、外壁は4本の柱とガラス壁からなる住宅である。

シュレーダー邸(オランダ)は、ヘリット・トーマス・リートフェルトの設計であり、外壁は白・グレーに、窓は青・赤・黄色とした色彩を重視している。

シドニーオペラハウス(シドニー)は、ヨルン・ウッツォンの設計であり、円弧のシェル群によるシンボリックな造形を特徴とした建築物である。

パルテノン神殿(アテネ)は、ドリス式のオーダー（柱と梁の構成原理）による周柱式とイオニア式のオーダーを用いたギリシア建築である。

コロッセウム(ローマ)は、ローマ市内に残る古代最大の円形闘技場であり、円柱はドリス式、イオニア式、コリント式のオーダーを用いたローマ建築である。

サン・ピエトロ大聖堂(ヴァチカン)は、巨大なドームや列柱廊を用いた初期バロック建築である。

ピサ大聖堂(ピサ)は、ラテン十字形プランをもち、交差部に楕円形のドームを架けたロマネスク建築である。

3. 用語・環境総合

熱伝達率は、壁面などから室内（空気）へ伝わる熱量であり、単位は「W/（㎡・K）」である（風速により伝わる熱量が大きく異なる）。

熱伝導率は、材料内部の熱の伝わりやすさを示す材料固有の値であり、その値が大きいほど、断熱性が低い材料であることを表す。

クロ(clo)値は、衣服の断熱性を表す指標であり、人の温冷感に影響する要素の一つである。

着衣量は、人の温熱感覚に影響する衣服による熱抵抗を示し、その単位はcloである（0cloは裸状態である）。

熱伝達率には対流と放射があり、対流熱伝達は、壁面などの固体表面とそれに接している周辺空気との間に生じる熱移動現象のことである。

大気放射とは、日射のうち、大気により吸収、散乱された部分から、地表面に放射される長波長のことである。

音における聴感上の3要素は、音の大きさ、音の高さ、音色である。

PMV(予測平均温冷感申告)は、温度、湿度、気流、放射の四つの温熱要素に加え、着衣量と作業量を考慮した温熱指標のことである。

日射量は、ある面が受ける単位面積・単位時間当たりの日射エネルギー量で表され、その単位はW/㎡である。

昼光率は、室内のある点の明るさを示す指標であり、室内のある点の昼光による照度と、屋外の明るさである全天空照度との比率である。

基本的な三つの熱移動のプロセスは、伝導（物体中の熱移動）、対流（空気中の対流熱移動）、放射（物体から放射される熱移動）である。

体感に影響を及ぼす四つの物理的な温熱要素は、温度、湿度、気流、放射である。

輝度は、光を発している対象面に対して、ある方向から見たときの明るさであり、単位は「cd」である。設問の「lm/㎡」は照度の単位。

生物化学的酸素要求量(BOD)は、水質汚濁を微生物が分解する時に必要な酸素量で示したものであり、単位は「mg/l」である。

浮遊粉じんの質量濃度は、1m^3中の浮遊粉じん量であり、単位は「mg/m^3」である。

明視の四条件は、対比、明るさ、大きさ、動き(時間)である。設問の距離は関係ない。

色の三属性は、色相、明度、彩度である。

日照率とは、可照時間（日の出から日没までの時間）に対する日照時間（実際に日の照った時間）の割合である。

同じ体積の場合、容積比熱（1m^3の物質を1℃上昇させる熱量）が大きい材料は、容積比熱が小さい材料に比べて、温めるのに多くの熱量を必要とする。

熱放射のエネルギー量は、その物質の表面温度に比例する。

熱容量は、物質の比熱に質量を乗じた値であり、コンクリート等その値が大きいほど、温めるのに多くの熱量を必要とする材料である。

残響時間は、発生した音が停止してから、音圧レベルが60 dB低下するまでの時間である。

光度（cd）は、光源から発散する光のエネルギーの強さを表す尺度である。

音の周波数（Hz）は、1秒間に繰り返される往復運動の振動数を表すものである。

絶対湿度（kg/kg（DA））は、乾燥空気1kgに含まれる水蒸気量である。

比熱（kJ/（kg・K））は、1gあたりの物質の温度を1度 あげるのに必要な熱量のことである。

明視（物の見やすさ）の四条件は、明るさ、対比、大きさ、動き(時間)である。

光の三原色は、赤、緑、青である。

水蒸気圧（湿り空気の全圧のうち、水蒸気の占める圧力）の単位は、kPaである。

※本内容は、通勤時等で日々熟読すると、試験時に不正解問題を読んだ時、「違う」と直感的に感じることができるようになる。

以下割愛